

特集

# 文学教材の授業づくり

今号の特集テーマは、文学教材の授業づくりです。筑波大学附属小学校桂聖先生に、「わたしはおねえさん」(二年下)を例に、指導計画の立て方や、具体的な指導方法をご紹介します。桂先生の実際の授業の様子をレポートしたページもありますので、あわせてご覧ください。そして最後に、秋田大学大学院阿部昇先生に、本実践のポイントを分析していただきます。

## 理論編

筑波大学附属小学校教諭

桂聖



1965年山口県生まれ。日本授業UD学会理事長、全国国語授業研究会理事。著書に、『国語授業UDのつくり方・見方』(学事出版)、『文学授業のユニバーサルデザイン』(東洋館出版社)などがある。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

撮影：長岡博史

## はじめに

### 文学教材で何を教えるのか

文学教材の授業では「文学教材の論理的な読み方」を教えることが大切だと考えています。

例えば、四年の文学教材「こんぎつね」では、ほとんどの教室で「ごんの心情を読み深める」授業をしています。しかし、それと同時に「心情の読み深め方」を指導している教室は、そう多くありません。

心情を読み深めるには、「会話文」「行動描写」「心内語」「副詞的表現」「情景描写」などの表現に着目します。また、「中心人物の心情の変化」「登場人物の相互関係の変化」を捉えます。

こうした読み方を段階的・系統的に指導していくことが大切です。

ただし、こうした読み方を使って解釈するのは、子ども(読者)です。私たち教師は、子どもに解釈を押しつけることはできません。解釈のツールとしての読み方を教えて、子ども自身が解釈を深めて、作品を適切に評価できるように指導します。

本稿では、文学教材の論理的な読み方を、

授業で楽しく学んでいくためのアイデアをご紹介します。

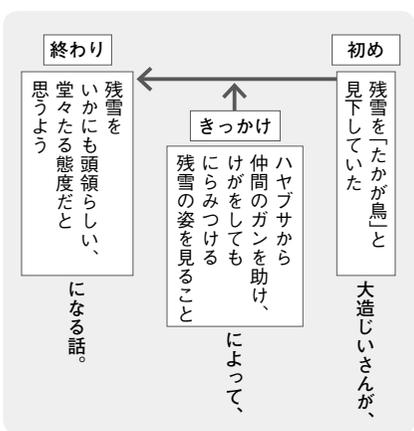
### 文学教材の論理的な読み方

文学教材は、次の七つの観点(※)から論理的に読んでいくことが必要だと考えます。

- 1 作品の構造
- 2 視点
- 3 人物
- 4 主題
- 5 文学の表現技法
- 6 文種
- 7 活動用語

この中で特に大切なのが、③の「人物」の観点から読む力です。概して言えば、低学年では、「中心人物の気持ちの変化の大体を読み取る力」、中学年では「中心人物の気持ちの変化を明確に読み取る力」、高学年では「登場人物の相互関係の変化を読み取る力」が求められます。教科書には、一年から六年までさまざまな文学教材が載っています。どの教材でも、中心人物の変化を追うことが主な学習になっていると言っているでしょう。中心人物の変化を捉えることができれば、高学年でその教材の主題に迫ることもできます。

図1は、「大造じいさんとガン」(五年)の中心人物の変化を図解したものです。どの文学教材も大抵このような構造になっています。つまり、中心人物の心情や、もの見方・考え方は、あることをきっかけに大きく変化するので、中心人物の変化を視覚的に捉えられるように、私の授業では、いつもこの図を示すようにしています。「初め」「きっかけ」「終わり」で中心人物を捉えていくことは、物語の要約にもなります。低学年の場合は教師が整理して示し、中学年になったら、自分で書けるようにします。そして、高学年の場合は、図を使って主題を考えられるようにするというように、発達段階に応じて指導していきます。



▲図1 中心人物 大造じいさんの変化

※観点①～⑦の詳細は、『筑波発 読みの系統指導で読む力を育てる』(東洋館出版社)参照。

# 教材研究と指導計画づくり

ここからは、「わたしはおねえさん」(2年下)を例に、文学教材の授業づくりについてお伝えします。

## ねらいを明確に

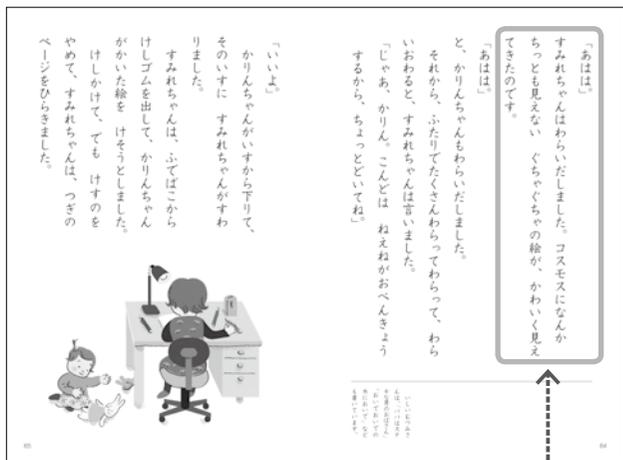
「わたしはおねえさん」は、小学二年生の女の子すみれちゃんが登場する物語。学習者にとってはまさに等身大の人物です。教科書には、「じんぶつと自分をくらべて読もう」という単元の目標が掲げられており、「あらすじを紹介する」という言語活動が設定されています。本稿では、次のような指導計画を立てました(資料1)。

前ページで述べたとおり、文学教材は、「中心人物の変化」を捉えることが学習の中心になります。「わたしはおねえさん」の場合、教科書64ページのすみれちゃんの場合、教科書64ページが教材の山場であり、気持ちが変化する場面が教材の山場であり、これを理解できるかどうかのポイントになります(資料2)。教師はつい、一つの教材から多くのことを教えたくりますが、複数のことを一度に教えようとすると、結局

どれも中途半端になることが少なくありません。計画を立てる際、ねらいを絞ることが大切です。

文学教材の単元は、次のように3次で構成すると分かりやすい。

- 第1次…教材の大体的内容を理解する
- 第2次…論理的な読み方を学ぶ
- 第3次…第2次で学んだ読み方を活用する  
※最後に必ず活用させて、学習方法の有効性を子どもに実感させることが大切です。



▲資料2 2年下P64-65

すみれちゃんの気持ちが変わる場面。本教材を学習するうえで重要な部分です。

## 「わたしはおねえさん」指導計画(全6時間)

### 第1次

作品「わたしはおねえさん」のいいところは？

1時 すみれちゃんの変化をおおまかに捉える。(読み聞かせ、気持ちの変化に着目、他の話の紹介)

### 第2次

すみれちゃんって、どんな子？

- 2時 すみれちゃんの言動から人物像を捉える。(首読、言ったこと・したこと・気持ちを自分と比べる)
- 3時 すみれちゃんの人物像から変化を捉える。「なぜ、かわいく見えたのか？」人物像から変化を捉える、自分と比べる)

### 第3次

小学生の物語を読んで、あらすじを紹介しよう

- 4時 「わたしはおねえさん」のあらすじについて話し合う。(あらすじの紹介のしかたを確認する)
- 5時 小学生(できれば1～3年生)が中心人物の物語を読む。(人物像やあらすじを考えながら読む)(人物像やあらすじを紹介し合う。(班や全体で話し合う))
- 6時

▲資料1

# 能動的な学びをつくる工夫

前ページで述べたように、指導のねらいを明確にすることが大切ですが、ここで注意したいことがあります。このねらいは、あくまでも教師が教えることであり、これを子どもが学びたいことに転化しなければなりません。子どもが自ら考えたいこと、話したくなるような能動的な授業をつくることが大切です。そのためには、いくつかの手立てが必要です。

## 第1時 山場に着目させる

第一時の導入では、教材の読み聞かせを行います。教科書は閉じたままで、教師の読み聞かせのみで物語の内容を押さえていきます。

その際、次の場面で読み聞かせをいったん止めて、子どもたちにその後の展開を予想させます。

・61ページの終わり  
(すみれちゃんが水やりから戻ってくる時、かりんちゃんがノートにぐちゃぐちゃのものをかいているところ。)

・63ページの終わり  
(ぐちゃぐちゃのものは「お花」だと知り、すみれちゃんがノートをじっと見つめているところ。)

これらの場面の展開を予想させることによって、子どもたちは自然に中心人物の行動や気持ちに着目します。また、教師は子どもたちの初発の感想をつかむことができます。その後の授業計画にも生かすことができます。

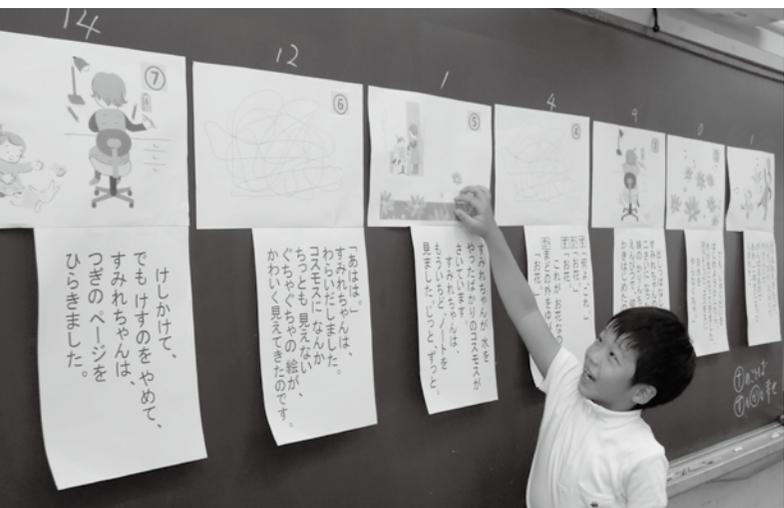
## 第1～3時 すみれちゃんの変化を捉える

本単元では、人物の変化を捉えるために、センテンスカードを使って、授業を進めていきます(資料3)。このセンテンスカードは、教材全文体を数枚のカードにまとめたもので、ストーリーの初めから終わりまでを一覧できるのが特徴です。文学教材は抵五～七枚に整理できます。

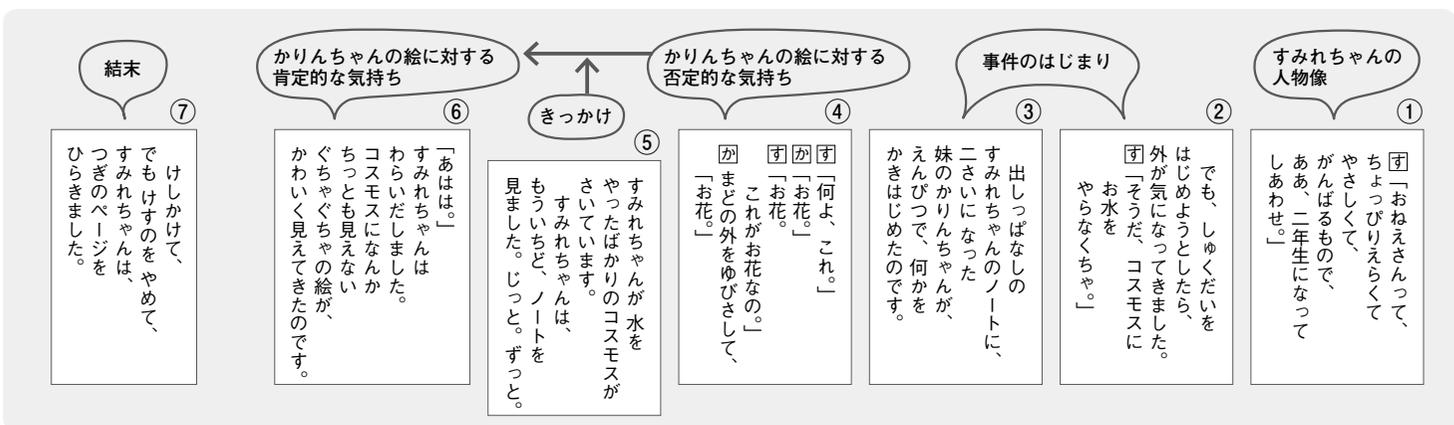
このカードにはさまざまな使い方があります。例えば、カードの順序を替えて掲示

し、子どもたちに間違い探しをさせます。なぜその順序だとおかしいのか、理由を考えさせながら行います。子どもたちは間違い探しのような活動が大好きです。張り切って取り組む中で、物語のあらすじをつかむことができます。

今回の授業では、すみれちゃんの気持ちの変化に着目させるためにカードを使用します(次ページ資料4)。この七枚のカードは、あらすじをつかめるのももちろんのこと、すみれちゃんの行動や気持ちの変化に



▲資料3 センテンスカードを使った授業の様子



▲資料4 「わたしはおねえさん」 センテンスカード ㊦…すみれちゃん ㊧…かりんちゃん

▼資料5 「あらすじクイズ」  
まずは ①(初め) と ②(終わり) を提示。

① ○○○をもらえなくて、不幸せだと思っていたAさんが、  
※中心人物の人物像  
「どんな中心人物が」

② 幸せな気持ちになった話  
「どうなった(どうした)話」  
※結末



▼資料6  
最後に、③(きっかけ) を提示。

① ○○○をもらえなくて、不幸せだと思っていたAさんが、  
※中心人物の人物像  
「どんな中心人物が」

② 幸せな気持ちになった話  
「どうなった(どうした)話」  
※結末

③ Bくんが○○○を書いたことを聞いたことよって、「」によって、  
※きっかけ

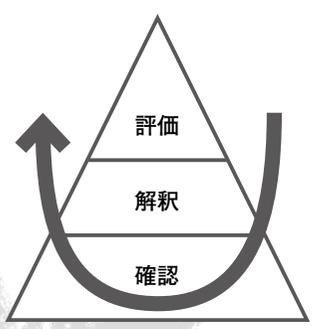
着目できるように整理してあります。具体的な使い方は次のとおりです。

第一時の読み聞かせの後、七枚のセンテンスカードを黒板に貼り、いちばんいいと思った場面はどれか選ばせます。一人一人が自分の意見をもつようにするために、全員を起立させ、カードの番号を決めた子どもから座るというルールにします。そして、どうしてその場面がいいと思ったのか、その理由を説明する場を設けます。最初に自分の意見を明確にするのは、次の「三つの読む力」で述べるねらいによるものです。

**全時 三つの読む力**

下段の図2は、文章を読むときの「三つの読む力」を図式化したものです。

評価読みは、確認読みや解釈読みがベースになっていきます。しかし、確認読みや解釈読みが終始する授業は、子どもにとって魅力的とはいえません。文章を読むということは、本来、共感したり疑問をもったりするなど、評価しながら読むということですから。適切に評価しながら読む読み手を育てることが、国語科の目標であるはずですから。そこで、図2の矢印のように、あえて評価読みから入り、解釈読み、確認読みを行



▲図2 三つの読む力

**全時 話し合い活動**

低学年の場合、自分の考えを書いて表現することには限界があります。授業の中で、どんな発言をするかが重要です。友達との交流によって、今まで見えなかったものが見えてくるのが話し合い活動です。その中で、子どもたち自身も話し合い活動の意義を実感することができます。国語は、一部の理解力の優れた子どもだけで授業が進み、傍観者の子どもをつくってしまうことがあります。そうならないように、話し合い活動は、例えば、次のような手立てで慎重に進めていきます。

■友達の意見を説明させる

誰かが発言したら「今、○○さんが言ったこと分かる?」と問いかけ、他の児童に説明させます。説明することによって、意見がより明確になります。理解できていない子にとっては、同じ内容をもう一度聞けるチャンスにもなります。

■ペアでの話し合い活動を設定する

全員に発言の機会を設けるためには、ペアでの話し合いが有効です。一対一なので、どの子も発言しやすくなります。

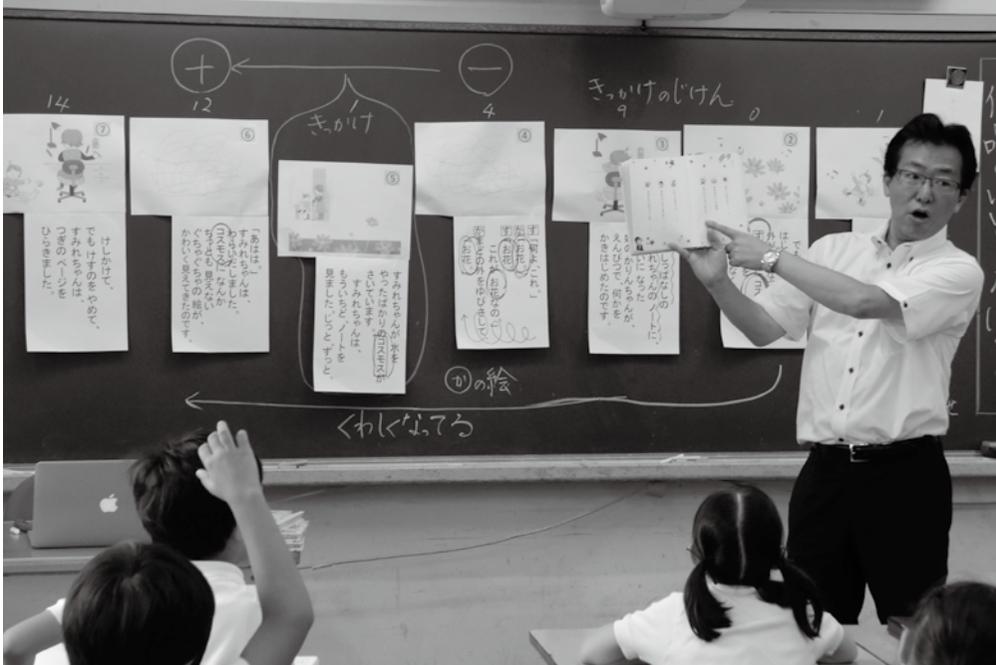
※話し合い活動の具体例は、次ページからの授業リポートをご覧ください。

# 「なぜ、かわいく見えたのか？」

筑波大学附属小学校

桂聖先生

× 二年生(三十二名)

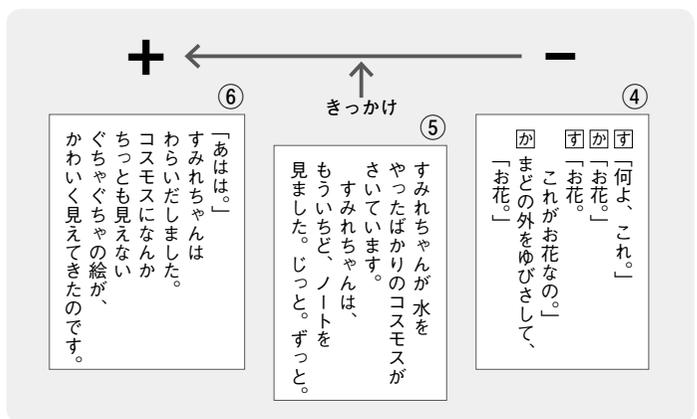


ここからは、桂先生が実際にどんな授業をされたのか、本誌編集部がレポートします。

本時は、教材の山場である、すみれちゃんが笑いだした場面に迫る学習です。第一時の初発の感想では、この場面のすみれちゃんの行動が理解できないという子どもが多数いました。本時の学習で、子どもたちの考えはどのように変容するのでしょうか。

\* \* \*

黒板には、第一時から使用している、七枚のセンテンスカードが貼つてあります。授業の冒頭、桂先生は、④～⑥の場面(下図参照)について、全員に問いかけました。



▲「わたしはおねえさん」センテンスカード④～⑥の場面

先生 ④の場面がマイナスで、⑥の場面がプラス。この図の意味が分かる人はいる？

※この学級では、登場人物の気持ちをプラスとマイナスで表現する方法を、他の単元で経験しています。

児童 (数名挙手)

先生 じゃあ、まずは隣りどうしで意見を交換してみよう。

このように、ペアでの話し合いを取り入れて、授業の傍観者をつくらないように配慮します(P7参照)。そして、その後、全員で話し合いを行います。

児童 きつかけがあつて、マイナスからプラスに変わったんだと思う。

先生 そうだね。⑤の場面がきつかけだね。何がマイナスとプラスなの？

児童 A (④の場面の)「何よ、これ。」がマイナスで、(⑥の場面の)「かわいく見えてきた」がプラス。

先生 今、Aさんが言ったことは分かる？ 分かる人、もう一回説明してみて。

一部の児童だけで授業が進まないよう、Aさんの発言内容を別の児童に説明させます(P7参照)。



児童 「何よ、これ。」がマイナスで、「ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきた」がプラスの気持ち。

先生 誰の気持ち？

児童 すみれちゃん。

先生 ④の場面では、すみれちゃんがマイナスの気持ちだったのが、⑤のきつかけで、プラスの気持ちに変わったんだね。

児童 ここ(④)で、かりんちゃんはお花つて気づいてはなかったのに、すみれちゃんはお花なのかわからなくてマイナス。でも、じつとずっと見ていたら、かわいく見えてきたから、「じつと。ずっと。」がきつ

かけで、こつち(⑥)がプラス。

先生 じつとずっと見ていたら、ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきたんだよね。この気持ち分かる？

分かる人。(半分くらい挙手)

分からない人。(半分くらい挙手)

みんな、自分の意見が正直に言えていいね。分からない人が大勢いるから勉強しているんだよね。では、今日の学習のめあてはこれです。



そう言いながら、桂先生は本時のめあて「なぜ、かわいく見えたのか？」を板書しました。そして、前時に学習したすみれちゃんの人物像について思い出させます。

先生 すみれちゃんはどうな子だった？

児童 外が気になる子。

先生 どこに書いてあった？

児童 宿題をやるうとしたんだけど、「コスモスにお水をやらなくちゃ。」って。宿題じゃないことを考えてる。

先生 なるほど。みんなも、宿題をしようと思ったんだけど、他のことが気になって……っていう経験ある？

児童 あるよ！宿題をやるうとしたら、飼っているメダカが気になって……。ずっと見ていたら、お母さんに怒られた。

児童 宿題をやるうとしたら、おやつが食べたくなくて、その後テレビを見ちゃった。



先生 今の話、自分もそういうことがあるなあって思った人いる？

この問いかけには、ほとんどの児童が「ある！ある！」と大きな声で反応しました。宿題をやるうとしたけれど、コスモスに水をやりに行ったすみれちゃんの行動には、共感できるようです。

先生 他に、「すみれちゃんって、こんな子」っていうのはある？

児童 歌を歌うのが好きな子。

先生 この中にも、歌を歌うのが好きな人はいる？

児童 (数名挙手)

先生 どんなときに歌うの？

児童 勉強してつまなくなったりとか、集中できなくなったりとか、歌いながらやる。

先生 なるほど。じゃあ、この場面(資料4①)をもう一度声に出して読んでみよう。

全員 「おねえさんって、ちよっぴりえらくてやさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。」

先生 みんなもすみれちゃんと同じ二年生だけど、今の場面に書いてあるすみれちゃんの気持ち分かる人はいる？

児童 分かる！例えば、一年生に分から

どんどん発言をし始めました。

児童 なぜかわいく見えたかというところと見ていたからだと思う。

児童 付け足し！一年生はじつとずっと見るってつまなくてやらないでしょ。でも二年生になって、優しくなったからじつとずっと見れて、それでかわいく見えた。

児童 すみれちゃんの妹が描いた絵だからかわいく見えたんだよ。知らない二歳の子が描いたらかわいく見えないと思う。

先生 なるほど。自分の妹だからこそ、かわいく見えたんだ。

児童 昔、自分もあんな下手な絵を描いていたなあって思い出して、そんな自分が笑えてきたんじゃない。

先生 そういうこともあるかもしれないね。じゃあ、自分にも妹がいたとして考えてみて。ノートをぐちゃぐちゃにされました。さあ、どうする？

児童 えー！消すかも……。

児童B 僕の妹は二歳だから、こんなふうで、めっちゃくちゃ絵を持つてくることがあるよ。「いにい、これ見て」って言いながら持つてくる。

先生 そのとき、Bくんはどうするの？

児童B 「すごいねー」って言ってあげる。



ないことを教えてあげたり、道に迷ったときにこつちだよって教えてあげたりするのは偉い。

先生 偉いし、優しいね。すみれちゃんって、そういう子なんだね。

すみれちゃんの人物像がはっきりしてきたところで、桂先生は、教材の山場である、すみれちゃんの気持ちの変化についても一度、問いかけました。

先生 じゃあ、⑥の場面の「ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきた」ってどういうことかな？

児童 二歳のかりんちゃんが、がんばって



先生 おつ、褒めてあげるんだ！

児童B うん。絵よりも、その言い方がかわいいなと思う。

児童 私だったら、褒めてあげて、また描いてねって言ってあげる。

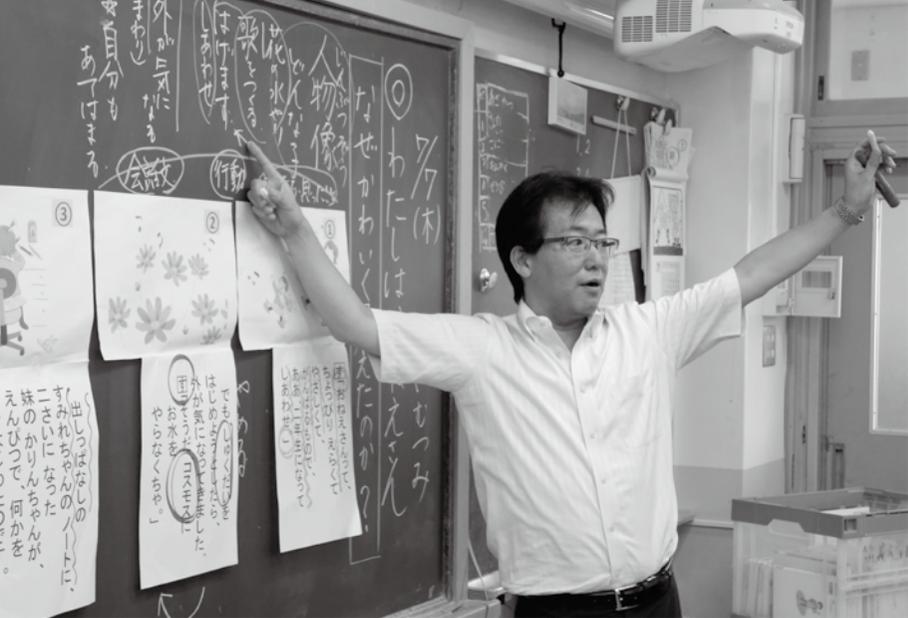
児童 私はノートを一枚ちぎって、これに描いていいよって渡す。

先生 「何これー」って怒る人はいないの？

児童 僕は「何これー」って言う！すみれちゃんの気持ちはちよつとだけ分かるけど、僕は違うなあ。

すみれちゃんの気持ちに近づいたところで、授業終了のチャイムが鳴りました。児童の発言は尽きず、「もう終わりなの？」という声上がるほど。

桂先生は、最後に、「なぜ、かわいく見えたのか」、自分の意見をノートに書くよう声をかけ、授業を終えました。



絵を描いたんだなって思った。まだ二歳なのに、一生懸命描いたからかわいく見えた。

このとき、複数の児童から、「そうか」と納得する声が上がりました。第一時では、このときのすみれちゃんの気持ち的理解できなかつた多数の児童が、確信した表情で

# 授業を終えて

—桂先生より—

## 教材の特性と授業のねらい

この教材でいちばん難しいのは、「すみれちゃんがりんちゃんの絵を見て、笑いだした理由」です。

確かに、「コスモスになんかちつとも見えないぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきたのです」という理由は書かれていますが。第一時においても、子どもは、その理由の表現を見つけることができました。

しかし、「自分のノートへの落書きがかわいく見えてきたって、このすみれちゃんの気持ちは、なるほど、よく分かるって感じかな?」と問い返すと、「うーん、よく分からない」と言う子がほとんど。

つまり、「かわいく見えてきた」という言葉は確認できても、お姉さんとしてのすみれちゃんの心情変化には共感できていないのです。

すみれちゃんは、そもそも「ちよつぱり

## 読み方で解釈を深める

授業では、レポートにあるように、「かわいく見えた理由」について、さまざまな解釈が出てきました。

「まだ二歳なのに、一生懸命描いたから」「二年生になって、優しくなったから」「(自分の)妹が描いた絵だから」「昔、自分もあんな下手な絵を描いていたなあって思い出した(から)」など、すみれちゃんのように、

お姉さんの立場から解釈することができていました。

また、「もしも自分に妹がいたとして、どうする?」と、問いかけたところ、「消すかも!」という意見がある一方で、「すごいね」「また描いてね」と褒めてあげるといった意見も出ました。

「かわいく見えた理由」には、答えはありません。しかし、すみれちゃんの人物像を関連づけたり、すみれちゃんと自分を比べて読んだりすることで、解釈が深まります。

人物像を関連つけて気持ちを讀み取ったり、登場人物と自分を比べて読んだりする読み方は、他の文章を読むときにも使える「文学教材の読み方」です。

理論編の冒頭でも述べたとおり、このような「論理的な読み方」を教えることが大切だと考えています。

# 桂先生の授業づくりのポイント

秋田大学大学院教授 **阿部 昇**



1954年東京都生まれ。日本教育方法学会常任理事、全国大学国語教育学会理事。著書に、「国語力をつける物語・小説の『読み』の授業—PISA読解力を超えるあたらしい授業の提案」『確かな「学力」を育てるアクティブラーニングを生かした探究型の授業づくり』(以上、明治図書)などがある。光村図書小学校・中学校「国語」教科書編集委員。

## 教材の読み方を段階的・系統的に学ばせる

桂先生の文学の授業の特長は二つあります。一つ目はその作品を読むことを通して、子どもたちに文学の「読み方」をしっかり指導し学ばせていることです。文学の授業ではその作品を読むことには熱心でも、それを通してどういう力をつけるかが曖昧な場合があるのですが、桂先生は子どもたちに「読む力」をしっかりつけています。二つ目は、その「読む力」を行き当たりばったりでなく、段階的・系統的につけていくという戦略をもっていることです。だから、子どもたちは前の教材で学んだ「読み方」を、次の教材の読み取りで生かすことができる。そしてさらに新しい「読み方」を学んでいくのです。

「わたしはおねえさん」を学習するのは二年生ですので、子どもはそれ以前にそうたくさん「読み方」は学んでいないかもしれません。しかし、ここで学んだ「中心人

物の変化」を捉えること、クライマックスに気をつけて読むこと、伏線に気をつけて読むことなどは、三年以降の文学の授業で十分生きていきます。

## クライマックスに着目した読み

桂先生は、物語の中で最も大きな節目となる部分であるクライマックスを核として読みを深めています。この物語では、中心人物の変化がいちばん大きい「『あはは。』すみれちゃんはわらいました。」「かわいく見えてきたのです。」がクライマックスです。この部分に着目することは、物語を讀み取るうえでとても大切なことです。

先生の援助もありますが、子どもたちは自然とこの作品のクライマックスに着目していています。そして、「マイナスからプラスに変わった。」「二歳のかりんちゃんが、一生懸命描いたからかわいく見えた。」などの読み取りをしています。

また、それに関わって「評価読み」を位置づけていることも大切です。

## 導入部や展開部の伏線にも気づかせる

クライマックスに至るまでの導入部の設定、展開部の伏線などへの着目も、物語の読み取りでは大切です。

桂先生の授業では、導入部の「おねえさんって、ちよつぱりえらくてやさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。」という設定にしっかり戻りながら読み取りが進んでいます。また、展開部で宿題をやるうとしたすみれちゃんが花に水をやりに行ってしまうという伏線にも着目させています。

二年生でも、丁寧な指導があればここまでの読み取りが可能です。そして、それらを「読み方」として身につけ、次の作品の読み取りで生かしていくこととなります。